

虎松を家康の家臣に――

井伊家復活の第一歩

井伊家を復興させるために、虎松(後の井伊直政)を家康のもとに出仕させた直虎。万千代と改名した虎松は、一人前の武将となっていた。



直虎の先見力が 井伊家の運命を変えた

三方ヶ原の戦いの翌年、病により武田信玄が死去した。武田氏の勢力は次第に弱まり、家康は遠江の領有を安定させる。

天正2年(1574)、直親の13回忌のため三河(愛知県)の鳳来寺に預けていた虎松が井伊谷へ帰還した。直虎と南溪和尚らは、虎松を虎松の母の再婚先である松下家の養子としたうえで、徳川家に仕えさせ、井伊家を復活させるという方針を決めた。直虎は鷹狩りに出ていた家康と虎松を引き合わせるよう画策。家康は15歳の虎松を小姓として迎え入れ、万千代(まんちよ)という名を与えた。そして、井伊谷に領地を持つことを許したのだ。

いいなまさきぞう

井伊直政尊像

幼いころから数奇な運命をたどる虎松(後の井伊直政)。徳川家康の小姓となり、万千代と名乗ってから、数々の武功を上げ、徳川四天王の一人と称されるようになる。率いる武士団は諸大名から「井伊の赤備え」と恐れられた。(龍潭寺所蔵)



(左)直親の墓 (右)直虎の墓
井伊家の菩提寺・龍潭寺には、始祖である共保から直政まで、井伊家歴代のお墓がある。直虎のお墓は、結ばれることなかった許婚・直親と並んでいる。



直虎、息を引き取る そして井伊直政が誕生

井伊家断絶の危機を寸前で乗り切った直虎は、家康のもとで数々の功績をあげていく万千代の勇姿に安堵しながら、天正10年(1582)8月26日、その生涯を終える。四十数年の生涯だったと伝えられている。同年の秋、万千代は元服し井伊直政と名乗る。直虎が、こ



の晴れ舞台を見ることは叶わなかった。許婚と引き離され、思い悩んだ末に出家し、決死の覚悟で「女城主」の役目を背負っていった井伊直虎。可憐で力強い橘の花のごとく運命に立ち向かっていったその姿は、今また、浜松の歴史の追憶へと誘ってくれるのだ。

井伊家の
子孫には
あの人物が!

幕末期の江戸幕府大老 井伊直弼 (いいなおすけ)

開国近代化を断行するも 暗殺される

井伊直弼は文化12年(1815)、彦根藩主の井伊直中の14男として生まれる。兄の直亮の世子・直元が急逝し跡継ぎとなり、嘉永3年(1850)に彦根藩主となる。ペリー来航の際には、幕府へ意見書を送り開国を主張した。安政5年(1858)幕府の大老となり、將軍継嗣問題と日米修好通商条約調印問題という難題解決に力を尽くす。しかし、勅許を待たずに条約に調印したため非難を浴びることに。この反対派の人々を次々に処罰した(安政の大獄)ため、強い恨みを持った。安政7年(1860)、登城中に水戸浪士に襲われ、桜田門外にて暗殺されてしまう(桜田門外の変)。



清涼寺蔵